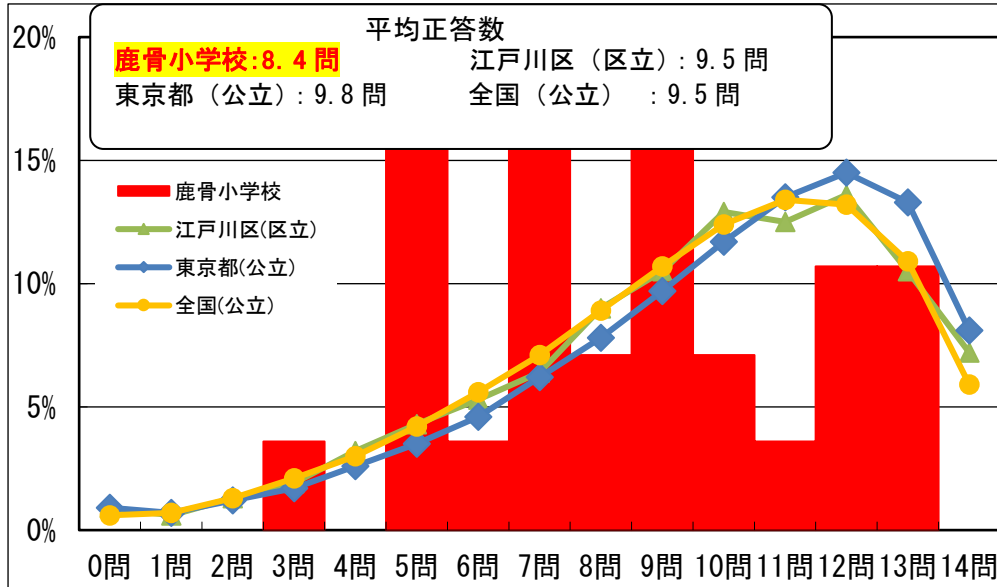


令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【国語】 鹿骨小学校

正答数分布



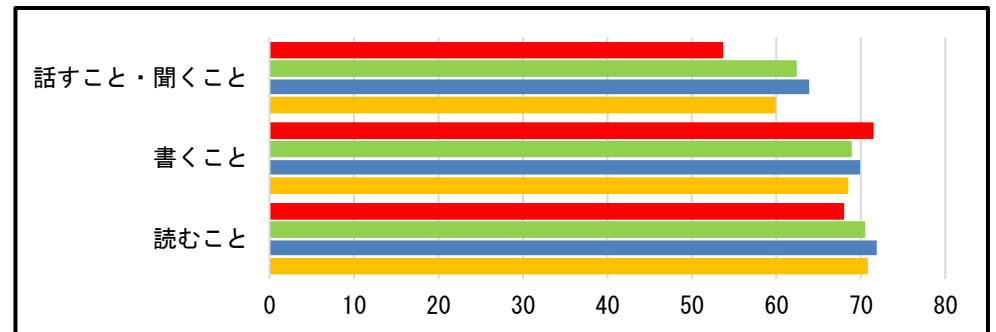
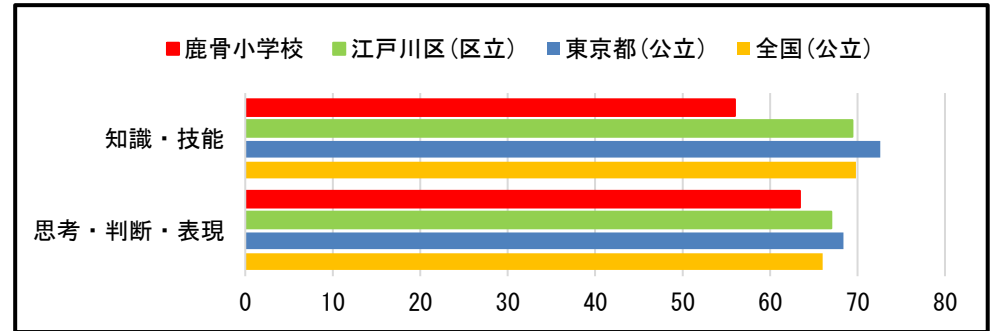
<四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← → 下位

国語	A層 12~14 問	B層 10~11 問	C層 8~9 問	D層 0~7 問
鹿骨小学校	21.4	10.6	25.0	43.0
江戸川区(区立)	31.3	25.4	19.5	23.8
東京都(公立)	35.9	25.2	17.5	21.4
全国(公立)	30.0	25.8	19.6	24.6

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【平均正答率の差】

鹿骨小学校	60%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	67.7%
都との差	10ポイント

【分析結果と授業改善に向けて】

本校児童と江戸川区(公立)との平均正答率の差は8ポイント、東京都(公立)との差は10ポイントであった。領域別に見ると、特に「知識・技能」「話すこと・聞くこと」に課題が見られた。問題形式で分析すると「漢字を正しく書く」問題と「場面に合った説明文を選択する」問題において、正答率が低いことが分かった。課題の解決に向けて本校では、「知識・技能」の学習では、漢字の読み書きの反復学習や図書館を活用した日常的な読書活動に取り組み、既習漢字や新出漢字の定着とともに、文字への親しみを深めていく。また、「話すこと・聞くこと」の学習では、児童に自分の考えをもたせる時間を確保し、意見を交流する際には、対話のような少数数での伝え合いから始め、多人数へと意見を広めていく活動をとおして、どの児童も安心して聞き手に伝わるように話しができる場面を設定していく。